

80 サンカノゴイ

(ペリカン目)

兵庫県ランク: A

Botaurus stellaris

繁殖個体群:無 越冬個体群:A 通過個体群:A

環境省ランク: EN

種の概要

ヨーロッパから東アジア、南アフリカなどで繁殖し、繁殖後はヨーロッパからアジア、アフリカ中・東部の温帯から熱帯域に渡り、越冬する。日本には秋に渡来し、全国各地で越冬する。また、北海道や千葉県、茨城県では局地的に少数が繁殖する。繁殖地周辺には周年生息する。広いヨシ原に生息し、主に早朝や夜間に魚類やカエル類などの小動物を捕食する。国内における生息数は極めて少ない。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、利尻島、天売島、本州、飛島、佐渡、舩倉島、四国、九州、対馬、壱岐、福岡沖ノ島、伊豆諸島、小笠原群島、トカラ列島、奄美大島、琉球諸島、大東諸島



写真提供：友田達也

(性別：不明)

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

姫路市、★明石市、★伊丹市、★豊岡市、加古川市、赤穂市、高砂市、南あわじ市、加東市

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	ね特殊 ぐら休 息環 境・	局地的 繁殖	希少
○	○	○				○	○		○

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では主に10-翌5月に記録がある。かつては瀬戸内の海岸や河口、池沼の広大なヨシ原に生息していた。多くは稀な冬鳥と考えられるが、1967年に加古川市尾上で、1976年には姫路市大塩で繁殖期に複数個体が観察されている。開発で生息環境が消滅するとともに姿を消し、現在では円山川周辺や県南部のヨシ原で稀に観察される程度である。

保護上の留意点

本種の生息には広大なヨシ原や湿地を必要とするため、それらの環境の保全及び再生が必要。また、減反により休耕となった田圃も水を張ることによって本種の好む湿地環境を創出することが可能である。